

無痛分娩に関する説明・同意書

1. 無痛分娩とは

無痛分娩とは、麻酔薬を用いて陣痛の痛みを和らげながら出産する方法です。当院では「硬膜外麻酔」を用いて行います。背骨の中にある神経の通り道（硬膜外腔）に細く柔らかいチューブを挿入し、そこから局所麻酔薬を持続的に注入することで、陣痛を和らげます。

「無痛」と一般的に表現しますが、痛みを完全に無くすることではなく、痛みの緩和による母児のストレス軽減を目的としています。

- 無痛分娩のメリット：痛みの軽減と疲労の予防 陣痛の痛みが和らぐことで、リラックスして出産に臨むことができ、産後の疲労回復が早まる傾向があります。痛みによるストレスが減るため、分娩中の血圧上昇を防ぎ、母体への負担を軽減します。
- 無痛分娩のデメリット：麻酔により陣痛が弱くなることで、自然分娩よりも時間がかかる可能性があり、陣痛促進剤のサポートが必要となることがあります。また、鉗子分娩や吸引分娩といった器械での分娩補助が必要となる可能性が高くなります。麻酔効果や痛みの感覚には個人差があり、満足な鎮痛効果が得られないこともあります。



日本産科麻酔学会 HP より転載

2. 無痛分娩を実施できない場合

以下のような場合には、実施できないためご了承ください。

- ・初産婦の方には対応しておりません（現在は安全性の観点から、経産婦の方に限定しております）。
- ・緊急手術や重症患者の対応により、安全な無痛分娩の実施が不可能と判断された場合。
- ・分娩の進行が速すぎて、硬膜外麻酔をする間もなく分娩となった場合。
- ・止血凝固異常がある場合：血液が固まりにくい疾患、抗凝固薬/抗血小板薬内服中など。
- ・特定の疾患のある方：脊椎手術後や脊髄疾患やヘルニアなど脊椎に問題がある場合、頭蓋内圧亢進状態、穿刺部位の感染、薬剤アレルギー、子宮奇形など。
- ・著しい肥満、妊娠中極端に体重が増加した方、麻酔時の協力が得られない方。
- ・胎児心拍異常や母体の異常経過など、なんらかの医学的理由により無痛分娩が安全上不適切と判断された場合。無痛分娩中であっても途中で中止することがあります。
- ・夜間・休日（原則、平日日中の対応となります）

3. 副作用 多くは一過性のもので、適切な処置により回復します。

□血圧低下 □かゆみ □発熱 □足のしびれ・筋力低下 □尿意低下・排尿困難

4. 合併症 十分に配慮して行いますが、医療行為である以上、以下の合併症が起こることがあります。十分な観察のもと、発生の早期発見と処置により適切に対応します。

- **硬膜穿刺後頭痛**：頻度 約 1% 分娩後、体を起こした時に激しい頭痛が起こることがあります。多くは安静、水分補給、痛み止めで数日以内に回復します。
- **局所麻酔薬中毒**：麻酔薬が血管内に注入されたり、急速に体内に吸収されたりした場合に起こります。初期症状として、耳鳴り、口の中の金属味、唇のしびれなどが現れ、重症化すると全身のけいれん、意識消失、心停止となることがあります。重篤な場合は救命処置を要します。
- **全脊髄くも膜麻酔**：硬膜外腔の管が脊髄くも膜下腔に入ってしまうことがまれにあります。麻酔薬が脊髄くも膜下腔に投与されると、麻酔の効果が強く急速に現れ、足が動かなくなったり、血圧が急激に下がったりします。重症では呼吸困難、意識消失など。重篤な場合は救命処置を要します。
- **神経障害**：カテーテルを入れる際に神経に触れたり、分娩中の長時間の産道圧迫により、産後に足のしびれや力が入りにくい症状が出ることがあります。多くは数週間から数ヶ月で自然に回復しますが、ごく稀に症状が後遺症として残ることがあります。
- **硬膜外血腫・膿瘍**：数万人に一人と非常にまれですが、背中に血の塊（血腫）や膿（膿瘍）がたまり、神経を圧迫することがあります。緊急手術が必要となります。

5. 無痛分娩の流れ

- ・ 当院では 37 週以降の計画分娩（予め入院日を決めて行う誘発分娩）を行っております。
- ・ 主治医の診察、子宮の入り口の状態により、最適な入院日を決定します。
- ・ 計画外（計画前に陣痛発来、破水した場合）でも可能な状況であれば対応します。
- ・ 入院予定日前に陣痛がきたり、破水がおこった場合は無痛分娩を提供できないことがあります。
- ・ 原則、平日・日中の麻酔対応となります。夜間は誘発分娩を中止しています。

※詳細は別の資料「無痛分娩のオリエンテーション」を必ずご参照ください。

6. 無痛分娩の費用について

□ 分娩費用 + 10 万円

- ・ 硬膜外カテーテルを挿入した時点から費用が発生します。
- ・ 途中、帝王切開に切りかわった場合でも費用は発生します。
- ・ 麻酔効果には個人差があり、満足な効果が得られなかった場合でも費用は発生しますので、あらかじめご了承ください。
- ・ 分娩経過、症状により上記以外に費用がかかる場合があります。
- ・ 高度な肥満や脊椎の状態により、麻酔を試みたができなかった場合、カテーテル留置後に何らかの理由で麻酔薬が投与されなかった場合は、カテーテル挿入料として 5 千円がかかります。

上記内容について説明しました。

年 月 日

説明医師 印

無痛分娩・同意書

鶴岡市立荘内病院 院長 殿

私は、担当医師より上記「無痛分娩に関する説明・同意書」に基づく説明を受けました。無痛分娩の麻酔の内容、起こりうる合併症について理解したうえで、硬膜外麻酔の実施、促進剤の使用に同意します。また、無痛分娩中に必要と判断された追加処置や検査、麻酔の中止にも同意します。

年 月 日

【同意者（ご本人）】 氏名：

印

【ご家族】 氏名：

ご本人との続柄：（ ） 印